

きんもくせい

病院だより

vol.126

令和5年
12月号



10周年、そして未来へ

シリーズ がんと共に生きる 住み慣れたこの場所で① さまざまな面からがん診療をサポート —当院のがん診療について—



手術支援ロボット「ダヴィンチ」



放射線治療機器



化学療法の薬剤を準備する薬剤師



アピアランスケアの相談

今やすべての人にとって、身近な病気である「がん」。日本人の2人に1人はがんになり、3人に1人はがんで亡くなると言われています。

「がんになったらもうダメかもしれない…」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、そうではありません。医療技術は日々確実に向上しています。ひと昔前に比べると、治療も検査も大きく進歩し、がんは、早期発見・早期治療ができれば、「治せる病気」になりました。

万が一、がんになったとしても、住み慣れた場所で

安心して治療ができるよう、当院ではがん診療に力を入れています。令和5年4月には、これまでの当院のがん診療の実績が評価され、厚生労働省から、「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けました。今後もこれまで以上にがん診療に力を入れて取り組んでまいります。

シリーズ「がんと共に生きる 住み慣れたこの場所で」。今月号からシリーズで当院のがん診療の強みや取り組みについて詳しく紹介していきます。

当院のがん診療について

当院のがん診療の取り組みについてご紹介します。

1 がん手術

図1のグラフのように、当院のがん手術件数は年々増加しています。当院には、各診療科にがんの専門知識を持った医師と、高度な難しい手術に対応できる麻酔科医がいます。特に、当院が2017年に導入した手術支援ロボット「ダヴィンチ」の手術は、患者さまの体への負担が少なく安全な手術として、泌尿器科の前立腺がんの手術から開始し、2021年度からは外科の直腸がんの手術、2022年度からは結腸がんの手術と、適用手術を拡大しています。まもなく産婦人科系のがんでもダヴィンチによる手術を開始する予定です。



▲ 図1 手術件数の推移

2 化学療法と放射線治療

がん治療の3本の柱は手術、化学療法、放射線治療です。当院では、これまで手術だけでは取り切れなかった「がん細胞」も、化学療法と放射線治療を組み合わせることで、破壊することができています。化学療法は、最近では副作用の少ない薬も開発されていることや、当院には化学療法を専門とする薬剤師がおり、主治医、看護師、栄養士等と協同し、チームで患者さま一人ひとりに合った治療方法を提案し、実施しています。

放射線治療（写真①）は、腫瘍放射線科医師と放射線技師が、患者さまの体への負担を軽減させるために、いかに的確な部位（がん細胞）に照射できるかを考え治療を行っています。

3年後には、さらに治療効果の高い放射線治療機器の導入も検討しています。



▲ 写真① 放射線治療機器

3 がん・緩和ケア支援センター

当院は治療だけでなく、患者さまやそのご家族の心や生活のサポートにも力を入れています。「がん・緩和ケア支援センター」では「自分らしく」をテーマにチームで患者さまやご家族・パートナーを支援しています。

緩和ケアと聞くと終末期のケアだと思われるかもしれませんが、当院の緩和ケアは、がんのステージに関わらず、がんと診断されたその日から、がんに関わる全てのことについて相談を受け、サポートするためにあります。最近では、がん患者さまの就労支援や両立支援（仕事とがん治療を両立する支援）にも力を入れています。がん患者の会「ぬくもりの会」の運営やアピランスケア（※）の相談も行っていきます。

また、2023年10月から「緩和ケア病床」の運用をスタートしました。がん患者さまやご家族・パートナーが、安心してがん治療に臨むことができる環境を整備し、医師、看護師だけでなく、薬剤師、栄養士、リハビリテーションスタッフ、公認心理士等のチームで皆さまを支えています。（写真②）今後は在宅医療と連携した、より質の高い緩和ケア医療を展開していく予定です。

※アピランスケア：がんやがん治療による脱毛、爪の変色等見た目の不安に対するケアのこと。医療用ウィッグ（かつら）や乳がん手術後の補正下着などを紹介しています。



▲ 写真② 緩和ケア病床 カンファレンスの様子

4 チームで支える当院のがん診療体制

当院には「がん」診療に関わる専門家が各部門に在籍し、この専門家がそれぞれの知識、技術を持ち寄りチームで患者さまと共にがんに向かっています。

例えば、リハビリテーション部門では、がんのリハビリテーション研修を修了した専門スタッフが、がんの手術を行った方へのリハビリテーションを実施するほか、リンパ節を摘出した方や、リンパ浮腫のある患者さまのために、リンパ浮腫外来を設置しています。また、栄養室では、がん病態栄養専門管理栄養士が、食事・栄養面からがん患者さまを支えています。

5 がんに関わるスタッフの教育研修体制の充実

がんに関わる治療や薬等の医療技術はめざましく進歩しています。より良い治療や薬を患者さまに提供するため、またより良いサポートを患者さまやご家族・パートナーに提案するために、当院のスタッフはがんに関わる様々な教育、研修を受けています。研修の対象は、医師や看護師だけでなく、コメディカルや事務職員も含め、がん診療に関わる全ての職員としており、病院全体でがん診療のレベルアップに取り組んでいます。2023年4月の「地域がん診療連携拠点病院」の指定は、手術や治療だけでなく、こうした病院全体での取り組みも評価につながっています。

6 がんの早期発見・早期治療につなげるために

当院ではがんの「早期発見」にも力を入れています。当院の人間ドック・健診センターでは、より多くの方に受診していただけるよう、受診枠を増加させ、スムーズで快適な受診のための体制を整えています。また、市民の方への人間ドックやがん検診受診の啓発活動を積極的に行っており、人間ドック等の結果で要精密検査となった方には、速やかに当院を受診し、必要な検査を受けていただける体制を整えています。

特に乳がん検診に対する活動では、忙しい女性のために日曜日に乳がん検診を受けられる日を設けたり、女性の診療放射線技師や臨床検査技師を中心とした、乳がんの自己検診の啓発活動を行っています。当院には3Dマンモグラ

フィ「トモシンセシス」（写真③）があり、乳腺の状態を明瞭に観察できることから、より正確な乳がん診断が可能となっています。



▲ 写真③ 乳がん検査 3Dマンモグラフィ「トモシンセシス」

今回紹介した取り組みはほんの一部に過ぎません。その他にも、がんに関する研究・調査への参加、各種啓発活動等様々な取り組みを行っています。今月号からスタートする「シリーズ：がんと共に生きる 住み慣れたこの場所で」の中で様々な取り組みを紹介していきます。もしあなたやあなたの大切な方が「がん」となっても、住み慣れた場所でもがん治療やサポートが受けられるということを知っていただき、皆さまの安心やがんに向かう勇気の一助になれば願っています。

看護部通信

緩和ケア病床が10月1日からオープンしました

当院は、2023年4月に地域がん診療連携拠点病院に指定されました。地域がん診療連携拠点病院とは、「がんに関する診療の体制や設備、情報提供、他の医療機関との連携などについて国が定めた基準を満たしている」病院です。この地域がん診療連携拠点病院を当院が目指そうと考えた理由のひとつに、医療圏域に住む皆さまががんにかかった時に、つらい思いをしながら遠くの病院に通うことがないようにとの院長の熱い思いがありました。もちろん私たち職員も地域の皆さまに還元できるならと考え、一丸となって取り組んできました。

その後、がん診療のさらなる充実を目指し、緩和ケア病床を立ち上げることになりました。本年10月1日に、5床の病床からスタートしています。がんの積極的治療が終了した患者さまが、痛みや苦痛を最小限にコントロールし、自分らしく日常を送ることができるよう調整する目的で、緩和ケア病床を立ち上げました。当院では初めての試みで試行錯誤の毎日ですが、患者さまが大切にしていることを最期までやり遂げられるように支援していきたいと考えています。そのためには患者さまの「体力を維持すること」「痛みやだるさを最小限にすること」、「不安を一人で抱え込まないようにすること」がとても大切です。医師をはじめ、薬剤師、リハビリテーションチーム、栄養士、心理士、看護師が一丸となって患者さまを支えていきます。

がんと診断されてもただただ恐れるのではなく、がんと共に自分らしく生きることを支えるために、中東遠総合医療センターの職員はあなたに寄り添っていきたく思います。

副院長兼看護部長 杉山 久美子



▲ 緩和ケア病床スタッフ

シルバーカーが院内の移動を快適にします

10月に掛川ライオンズクラブからシルバーカー5台を寄贈していただきました。

正面玄関に用意していますので、外来診察や検査の移動時にご利用ください。

※利用予約はできませんのでご了承ください。



バレーボールチームが県大会優勝！

10月28日(土)に静岡市で行われた、静岡県自治体病院球技大会バレーボール県大会において、当院のバレーボールチームが優勝しました。

医師、看護師、栄養士、リハビリテーションスタッフ等が、日頃の業務で培ったチームワークを活かし、みごと勝利を勝ち取りました。



RECRUIT

当院では職員を募集しています

現在募集中の職種

正規職員

院内救命士、看護師(経験者)、薬剤師、作業療法士(経験者)、言語聴覚士、臨床工学技士、視能訓練士



▲薬剤師



▲看護師

【採用担当者から】

医療のプロフェッショナルとして共に高みを目指す、そんな方からの応募をお待ちしています。
当院では働き方改革を推進しており、また育児休業制度等の福利厚生が充実しています。長く安心して働ける環境が整っています。

地域に
貢献

研修
充実

安定

子育て
応援



▲詳細はこちら

会計年度任用職員(非常勤職員)

薬剤師、看護師、視能訓練士、メディカルエイド、医師事務作業補助者、事務職員



▲医師事務作業補助者



▲メディカルエイド

【医師事務作業補助者(MS)とは?】

医師が行う業務のうち、事務的な業務をサポートする職種です。医師の指示と確認のもとに、これまで医師が行っていた、電子カルテへの入力補助、検査や診察のオーダー入力補助、診断書や証明書といった文書の下書き作成などを行っています。

10月の 診療実績

	1日あたりの患者数		病床利用率	75.8%
	入院	379人	平均在院日数	9.1日
	外来	1,140人	手術件数	532件
紹介	率	90.9%	救命救急センター受診者数	1,372人
逆紹介	率	112.3%	救急搬送件数	571件

病院だより「きんもくせい」は、中東遠総合医療センター、掛川・袋井両市役所及び一部の市内公共施設にて無料で配布しております。

ホームページ <https://www.chutoen-hp.shizuoka.jp/>

過去の病院だよりをホームページでご覧いただけます。 [中東遠](#) [検索](#)

スマートフォン・タブレットからアクセスする際にはQRコードをご利用ください



〒436-8555
掛川市菖蒲ヶ池1番地の1
TEL 0537-21-5555



日本医療機能評価機構
認定第JC2093号